



一人一人の子どもを大切に考えたら、 小中一貫教育にたどり着きました

学校教育課長 大川 淳

平成15年度からの4年間、第五校区が、県教育委員会と文部科学省の指定を受け、小中連携教育の研究に取り組みました。当時、中学校入学時の大幅な学習量増加や部活動の開始など、急激な環境の変化をきっかけに欠席が増える「中1ギャップ」という現象が著しくなっていました。しかし、この研究で、小学生の中学校授業体験や部活動体験、学校行事における児童生徒の交流等を進めることにより、中学校入学時の不安は軽減され、不登校が減少していきました。当時の校長先生からは、「最も力を入れたのは、小中学校が離れていても同じ取組をすること。」と聞いています。

この第五校区の研究は、「小中学校がそれぞれの立場から行う教育のギャップに苦しむ子どもを救うには、子どもの視点から義務教育9年間を捉え、小中学校の教職員の意識を一つにすることが重要である。そして、この取組は全ての子どもたちの学びを充実したものにします。」という考えを導きました。これは、既に小中連携教育の域を超え、小中一貫教育の段階に達しています。その後も、沼津市教育委員会では、静浦小中一貫学校の開校等、小中一貫教育の研究を積み重ね、平成30年度から、全ての市立小中学校で小中一貫教育の研究に取り組み、推進していくことにしました。

今後の研究の内容は、中学校区ごとに9年間を通して目指す子ども像をつくりあげ、小中一貫教育目標を設定し、9年間で学ぶ内容や身に付ける力を明確化すること。中学校区をまとめるための組織をつくること。中学校区単位での学校評議員会の開催や「チーム学校」実現事業により、中学校区単位で地域と連携すること等です。こうして、義務教育9年間という縦系と地域という横系を織り成し、子どもを主役にした、地域と共に子どもを育む小中一貫教育を目指します。沼津市には、17の中学校区があり、41もの小中学校があるので、具体的な取組はそれぞれの地域の特色により異なるものになっていくと思います。ただし、どの中学校区でも共通して目指すのは、これらの取組により、小中学校教職員の意識が一つになることです。

沼津市が目指す小中一貫教育は、子どもの視点から、一人一人を大切にした教育を行うことであり、その中で子どもたちが自分らしさを存分に発揮しながら9年間の学びを積み重ね、義務教育修了段階に向けて「なりたい自分になる力」を身に付けていくことです。



子どもにしかできないこと

沼津市立片浜小学校長 藤井則久

1年生が入学して、もうすっかり学校生活に慣れた様子を見せています。元気いっぱいの笑顔とともに正門前で挨拶を交わす姿も、自信にあふれています。でも、最初からそんな風にはできませんでした。

正門前には、私を含め PTA 会長、見守りボランティアの方が立って、笑顔で「おはようございます」と子ども達と挨拶を交わしています。それが初めての1年生、もじもじ君達が多かったです。きっと担任からは朝のあいさつをしましょうという指導があったはずですが、でも、どんな声でどんな風に挨拶すればいいのか、わからない子達でいっぱいです。そんな中ほほえましい風景がありました。

手を繋いで妹とともに登校した高学年のお兄ちゃん、まずは自分がこちらと挨拶を交わします。妹は固まってしまっています。すかさずお兄ちゃんが、私たちの方に手をさしのべながら、「おはようございますって言えばいいんだよ」という感じであいさつを促していました。少し膝を曲げて妹の顔に自分の顔を近づけて優しく微笑みながら。妹にとっては、何と心強いお兄ちゃんと感じたのではないのでしょうか。次の日からは、妹は自分から元気よく朝の挨拶を交わし正門を通過しています。

1年生にもいろんなタイプの子がいます。忘れ物をしたようで、一度通過した正門をまた出て行こうとします。「忘れ物は仕方がないから、担任の先生にお話をすればいいんだよ。家には戻らないんだよ。」といって、手を繋いででもふりほどいてまた出て行こうとします。

ちょっとした追いかけてこのようになってしまいました。

さて、困ったなあと思っていたところを、6年生が「おい、〇〇ちゃん、一緒に行こうぜ。」と声をかけてくれました。あれまあ、忘れ物のことはどこに行っちゃったのかと思うぐらい、手を繋いでもらって一緒に校舎の方に向かうではありませんか。大人の理屈で言い聞かせることができないところで、あっけなく6年生の勝利です。

「頼むね、〇〇さん（6年生の名前です）。」と声をかけ一安心したのでした。この二つの出来事のように、大人が何を言っても伝わりにくいことでも、子ども同士の関わりでそれができてしまうことってあるのですね。不思議な力が働いています。

学校、家庭や地域と一緒に育てる大切さが叫ばれます。でも、大人だけが子どもを育てるのではないことも忘れてはいけません。子ども同士が関わる時間が、いろんな場でもっともっと増えるといいなあと感じた出来事でした。



面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など
 青少年に関する面接相談。
 ◎相談および申し込み受付時間：
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）
 ◎相談申し込み：Tel 951-3440

平成30年4・5・6月の状況

各月の新規相談件数、4月から6月までの相談ケース数及び延べ相談回数は以下のとおりでした。本年度、面接相談において新たな取組を開始しましたので、お知らせします。

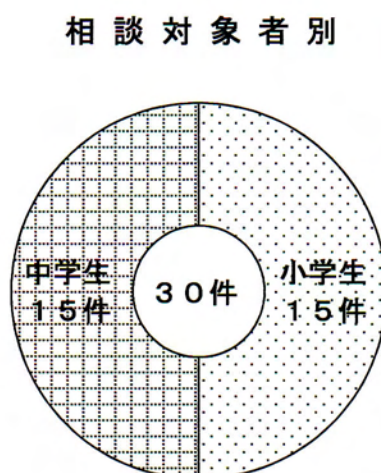
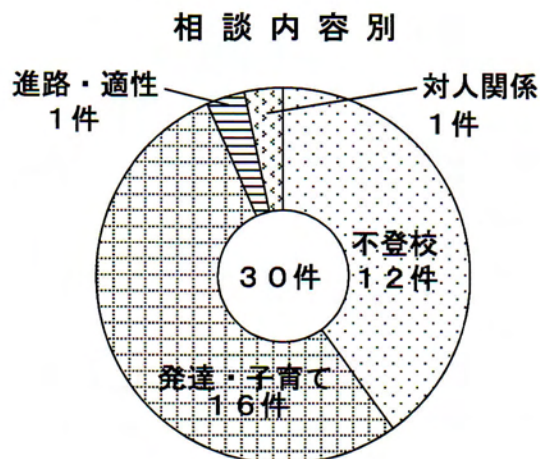
1 各月の新規相談件数（相談内容別）

	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
4月	0	5	0	0	1	0	6
5月	0	4	1	0	0	0	5
6月	0	3	15	1	0	0	19

2 各月の新規相談件数（相談対象者別）

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
4月	0	0	6	0	0	0	6
5月	0	3	2	0	0	0	5
6月	0	12	7	0	0	0	19

3 今年度の新規相談受付状況



4 4月から6月までの相談ケース数

※年度における相談者1人を相談1ケースとする

	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
男	0	19	14	1	1	0	35
女	0	9	6	0	0	0	15
合計	0	28	20	1	1	0	50

5 4月から6月までの延べ相談回数

	面接	訪問	合計
男	195	0	195
女	89	0	89
合計	284	0	284



6 面接相談の新たな取組について

発達障害や社会性の未発達等、さまざまな悩みを抱える子どもやその保護者に対する総合的な相談業務を充実させるために、今年度、臨床心理士や言語聴覚士を配置しました。相談員が専門家の示唆を受けながらケース検討できる機会が増えたことで、より適切に対応できる体制が整いました。

7 はばたき活動の様子

- 5 / 9(水) いっしょに遊ぼう(5人)
- 5/30(水) 北消防署見学(2人)
- 6 / 6(水) びゅうお見学(4人)は雨天のため室内レク大会に変更
- 6/28(木) 竹取&水鉄砲作り(6人)は相談指導学級との合同開催

4月はミニはばたきという形で、担当と子ども数人とで一緒に活動をしました。

5～6月は月2回のペースではばたき活動を行いました。参加人数は多くはありませんが、一緒に活動することで参加者同士の関わり合いが見られるようになってきています。

今年度もこのように小集団での体験活動「はばたき」を行っていきます。



8 相談指導学級の様子

本年度は通級者1人(中学3年生)でスタートしましたが、4月から学校復帰を試みていた昨年度の通級生2人が、週1,2日再び通級するようになりました。

また、通所面接をする中で入級を考えている生徒5人が体験通級を始め、内1人が7月から本通級となりました。

学級では、基本的に活動の時間が午前と午後に2コマずつセットされ、合間にふれあいタイムを設けた日課になっています。

それぞれの活動は自分が立てた計画に沿って教科の学習をしたり、創作活動をしたりしています。毎週木曜日は体験活動の日として農園体験やハイキング、調理実習、創作活動などを行っています。どの活動でも充実感・達成感等を十分に味わうことができます。

中には、学校復帰をめざして、修学旅行などの学校行事への準備や参加を積極的に行っている通級生もいます。

電話相談

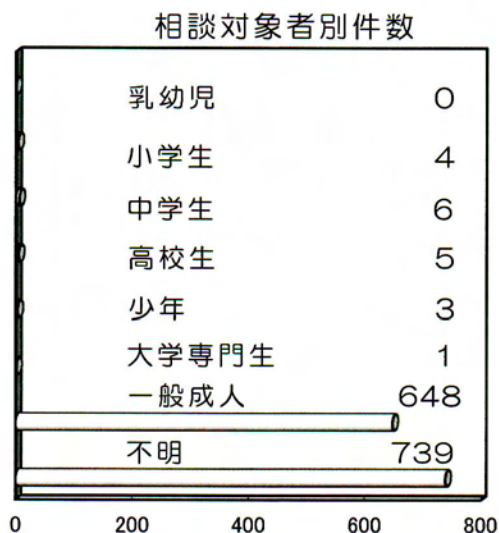
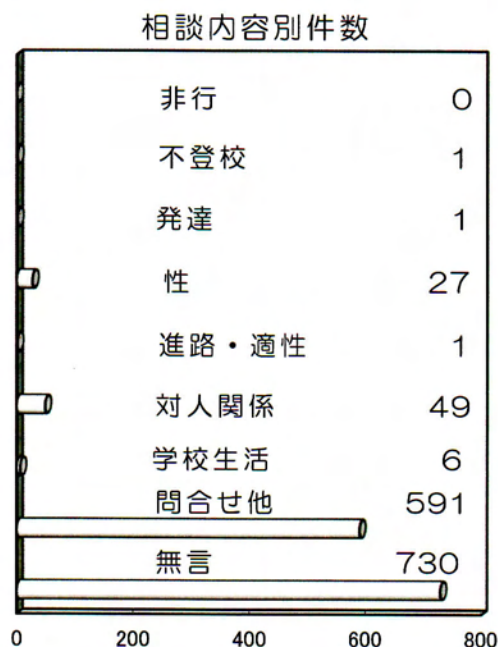


◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談。
 ◎相談時間：
 午前10時～午後7時 月～金曜日(祝祭日を除く)
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

平成30年4・5・6月の状況

4月には430件、5月には500件、6月には476件の相談が寄せられました。
 (前年4月：390件、前年5月：472件、前年6月：472件)

1 4・5・6月の相談状況



2 今年度の電話相談受信件数状況

総件数 1,406件 (前年同期1,334件)

(1) 相談内容別

	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	0	1	1	27	1	49	6	591	730

(2) 相談対象者別

	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	4	6	5	3	1	648	739

◎◎補導の目◎◎



補導委員としての思い

女性補導委員 原川文字

補導活動を始めて5年目を迎えました。最初は子供達に声もかけられず、ゲームセンターやブリクラのコーナー、映画館などに入る時には、誰も居ません様にと願っていたのが正直な気持ちでした。声かけすると、私達の腕章を見てびっくりし、にらみつけてくる子供や心配そうな顔をする子供もいます。「学校や家に連絡されたら、どうしよう。」と戸惑いを見せる子供に「連絡しないよ。」と伝えるとほっとした顔を話しをしてくれます。すかさず危ないところへ行かない様にとつながります。

先日も平日の午前中、仲見世商店街で二人の少年に声をかけました。「運動会の代休日です。」ととてもはきはきと受け答えてくれました。補導委員全員がさわやかな気持ちになりました。思えば、このような気持ちになったのは初めてかもしれません。

今の子供達は、声が小さくて元気がありません。そして、姿勢の悪い子供達も多い様に思います。

昔から「健全な精神は健全な肉体に宿る」といいます。朝ご飯をしっかり食べているのかな？と気になります。

昨今、子供達が巻き込まれる、悪質なニュースを見るにつけ、胸が締め付けられます。今、行っている補導活動がこの様な事を防ぐ、一翼をになうものであればと思っております。



1 少年補導委員の延べ参加人数（4・5・6月）

	市職員	教員	女性補導委員	母親補導委員	地区代表補導委員	警察	地区補導委員	総数
4月	6	2	7	0	8	0	247	270
5月	4	8	6	4	0	0	290	312
6月	7	6	6	4	5	0	266	294

2 補導回数・補導状況（4・5・6月）

	補 導 回 数				行為に対する注意・指導	愛の声かけ	法令違反・＜犯行為に関する連絡※	
	午前	午後	夜間	計			家庭・学校等	他機関
4月	4	9	32	45	18	110	0	0
5月	2	12	35	49	75	159	0	0
6月	3	10	34	47	40	240	0	0

3 補導活動（今年度6月までの累計）

補 導 回 数	延べ参加補導委員数	行為に対する注意・指導	愛の声かけ	法令違反・＜犯行為に関する連絡※	
				家庭・学校等	他機関
141	876	133	509	0	0

※ ＜犯…将来、犯罪に発展するおそれのある行為

4 4・5・6月の街頭補導少年の学職別状況（中央・地区別補導）

5月に新体制の下、本年度の補導活動がスタートしました。本ページでは、下表にあるように補導中の「行為に対する注意・指導」及び「愛の声かけ運動」の件数をお知らせしていきます。

また、法令違反・ぐ犯行為が認められた際に家庭・学校等及び他機関へ連絡した件数も掲載していきます。



区分	学職別	性別	小	中	高	その他	有職	無職	計	累四月から計の	
			学	学	校	学	少	少			
			生	生	生	生	年	年			
行為種別	飲酒	男							0	0	
		女							0	0	
	喫煙	男								0	0
		女								0	0
	薬物乱用	男								0	0
		女								0	0
	夜間はいかい	男			20					20	20
		女	1		15					16	16
	不良交友	男								0	0
		女								0	0
	怠学・怠業	男								0	0
		女								0	0
	ゲームセンター入場	男	5	6	43			2		56	56
		女	7	10	12					29	29
	パチンコ店入場	男								0	0
女									0	0	
カラオケ店入場	男								0	0	
	女								0	0	
自転車の暴走行為	男								0	0	
	女								0	0	
自転車の二人乗り	男								0	0	
	女								0	0	
自転車の無灯火	男		2						2	2	
	女								0	0	
危険な遊び	男	1							1	1	
	女								0	0	
その他	男	7							7	7	
	女	2							2	2	
計		男	13	8	63	0	2	0	86	86	
		女	10	10	27	0	0	0	47	47	
男女合計			23	18	90	0	2	0	133	133	

法令違反・ぐ犯行為に関する連絡※	家庭・学校等	男							0	0	
		女							0	0	
	他機関	男								0	0
		女								0	0
男女合計			0	0	0	0	0	0	0	0	

※ ぐ犯…将来、犯罪に発展するおそれのある行為

愛の声かけ運動	男	92	60	133	5			290	290	
	女	76	58	85				219	219	
男女合計			168	118	218	5	0	0	509	509

「百聞不如一見」 =百聞は一見に如かず=

<上段4行>

百聞は一見に如かず
 百見は一考に如かず
 百考は一行に如かず
 百行は一果に如かず

<下段6行>

百聞は一見に如かず
 百見は一考に如かず
 百考は一行に如かず
 百行は一効に如かず
 百効は一幸に如かず
 百幸は一皇に如かず

「百聞は一見に如かず」は、どんなにたくさん話を聞くより、実際に見た方が分かりやすいという意味です。仕事やスポーツをする上で役立つ言葉です。

この言葉には続きがあります。その部分は出所不明で、2種類あります。

上段の4行は「聞くより見る方がよいが、見ただけでは不十分である。考えなくてはならない。しかし、考えただけでは変わらない。考えを実行に移さなくてはならない。とはいえ、実行すればよいというものでもない。効果があって初めて価値あるものになる。」というものです。

一方下段は、上段の4行に2行が加わり、6行となります。4行目の「果」が「効」に変わっていますが、いずれも「効果（成果）」の意味合いがあり、同意語と捉えてもよいと思います。

さて、5行目以降ですが、「成果を上げるだけではなく、幸せ（喜び）に繋がるものでなくてはならない。その幸せも自分のものではなく、皇でなくてはならない。」と語っています。

ここでの「皇」は、皇帝や天皇のことであり、広く国民のためを考える存在であると解釈できます。したがって、「自分よがりになるな」という戒めであると判断できます。

いずれにしても、「聞いて、見て、考えて、実行に移して成果を確認して、それが自分だけでなく、みんなのためになっているかどうか振り返ることが大切である。」と教えているように思います。



青少年教育センターの活動予定 (8・9・10月の主な活動)

※天候による変更あり

相談指導学級		はばたき活動	
8月30日(木)	農園体験	9月12日(水)	源兵衛川探検
9月6日(木)	富士山世界遺産ツアー見学	26日(水)	第4回チャレンジ大会
13日(木)	農園体験	10月10日(水)	野外調理教室
20日(木)	創作活動	24日(水)	富士山世界遺産ツアー見学
27日(木)	調理体験		
10月4日(木)	ハイキング		
11日(木)	農園体験		
18日(木)	創作活動		
25日(木)	調理体験		
		補導関係	
		9月7日(金)	補導委員会代表者会③

明るい子どもが育つまち

青少年健全育成

シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言 (昭和55年)

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート(心)を表しています。